

取材の仕方や見出しの付け方などを学ぶ中学生。28日、敦賀市立図書館



郷土新聞作り 準備万端

敦賀で講座 中学生、記者からこつ学ぶ



県中学生郷土新聞コンクールに向け、取材の仕方や見出しの付け方などを解説する講座(県中学校教育研究会社会科部会、県文書館、福井新聞社主催)が28日、敦賀市立図書館で開かれた。市内の中学生ら約20人が、新聞記者らから新聞作りのこつを学んだ。福井新聞社の徳島泰彦NIEコーディネーターと藪内弘昌・みんなの新聞部長らが指導に当たった。

福井新聞の28日付の紙面や過去のコンクール入賞作品などを例に、テーマの設定や見出しの数、写真の配置など紙面構成を紹介。徳島コーディネーターは、文献で調べるだけでなく、関係者に直接インタビューして生の声を聞くことが大切とし、「取材先の思いや自分の意見を盛り込んだ紙面を作って」と呼び掛けた。実際の記事への見出し付けにも挑戦した。受講した竹中颯弥さん(気比中2年)は「敦賀港の歴史についての新聞を作る予定。レイアウトや見出し付けのこつを取り入れて、読みやすい紙面を作りたい」と意気込んでいた。

(藤田有美)